



## 目標 1

### あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

**ターゲット 1.4** 2030 年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。

## 小口融資

### 中東 ヨルダン

#### 小口融資

**概要：**2000 年 10 月、小口融資を開始し、女性たちの自立を支援している。イスラム社会では女性の自由な外出が制限されているため、自宅で小さなビジネスができる小口融資は利用しやすい。首都アンマン他 4 地域に住む女性が対象で、保証人 2 人をたてて契約し、1 人について新規は 300JD (≒ \$423) から融資し、成功度と返済の姿勢に応じて 400JD (≒ \$564)、500JD (≒ \$705) と増額。無利子で融資し、10 回で分割返済するシステム。返済金及びその 2% の額を事務費として回収し、生活・経営指導もしている。

融資を受けている女性の交流会を開催し、仕事の体験談の分かちあいと、母親教育を行い、精神的自立も支援している。  
※ JD = ヨルダン・ディナール

**ビジネスの種類：**販売（衣類、古着、お菓子、雑貨、小物、金物、化粧品）、テラー、美容室、自家製料理のデリバリーサービス

#### 進展状況

##### 【2017】

- 40-50 歳を対象に計 20 件融資。返済率 100%。

##### 【2018】

- 30-50 歳を対象に計 35 件融資。返済率 100%。



伝統菓子製作販売



野菜販売



パン製作販売



洋裁



ビーズ小物製作販売

# 奨学金制度

国名	対象	支援期間・金額	開始年度	奨学生	
				2017	2018
<b>アジア</b>					
スリランカ	成績優秀ながら貧困家庭の高校生、大学生、専門学生	高校生：年間 12,000 円を原則として 2 年間 大学生：年間 22,000 円を卒業まで	2002 年 11 月	24	26
<b>アフリカ</b>					
ガンビア	成績優秀で就学継続困難な中学 1 年～高校 3 年	中学生は年間 7,000 円、高校生は年間 15,000 円	1995 年 9 月	68	67
ザンビア	優秀だが貧困のため学費の払えない国立デビッド・カウンダ・テクニカル・ハイスクールの生徒	年間 60,000 円を学費と寮費として、3 期に分けて支援。	2013 年 9 月	10	3
<b>中東</b>					
ヨルダン	大学生	年間 500,000 円	2001 年 11 月	14	12
パレスチナ	イゼルディン・アブエライシュ医師が創設した「ドーターズ・フォー・ライフ財団」が支援するパレスチナ出身の女子大学生	2017 年に 8,000 ドルを財団に寄付。			

## その他実施国：ウガンダ、モーリタニア

### 里子たちの感謝の声



#### ルワンダ

ニューホープ技術専門学校卒業生で三角弘子さん（WFWP 福岡第 1 連合会、写真右）の 2 人の里子が、2018 年 10 月 19 日に開催された「ニューホープ技術専門学校創立 20 周年記念式典」にて、卒業生を代表して感謝のメッセージを里親の三角さんの前で述べました。

#### ウィネジア・イマキュリー（中央）

「内戦で両親を亡くし、虐殺孤児となり、夢も希望もなかった時、ニューホープ技術専門学校の学費支援のおかげで入学でき、卒業し、レストランのシェフを任せてもらうようにまでなりました。その後結婚して、家

族の支援もできるようになりました。この支援のおかげで、虐殺後孤独だった私に生きる自信を与えてくれ、考えもしなかった将来を描かせてくれました。学校が私を支えてくれたように、今度は私が学生たちに学外実習の機会を与えてあげることができるよう支援したいです。」

#### ニシムウェ・ジャン（左）

「虐殺で両親を亡くしましたが、何とか生き残り、故郷に帰って、修繕した家に住んでいると、家族を殺した敵民族が、故郷に帰ってきました。僕が家の中にいる時に、家を焼かれました。何とかそこから生還し、しばらく入院して、ようやく退院。唯一の親族のおばさんのところに行くと、その夫から同居を断られ、行く当てもなくストリートチルドレンとして生活していました。その時に、ニューホープ技術専門学校の前学長に町で出会い、『現状から抜け出すために学校に来て勉強しなさい。』と言われ、里親に支えられ、何とか卒業し、自分で起業することができました。ニューホープの支援がなければ今の自分はありません。」

現在は、VIP なども相手にするやり手の美容師に成長した。在学中唯一の頼りだった里親の三角さんの写真を携帯の待ち受けにして大事にしている。



WFP ルサイファセンター



ワークショップの修了証書を授与

## 中東 ヨルダン

### WFP ルサイファセンター

**概要：**2000年1月、首都アンマンの貧困地域ワディシールに職業訓練センターを設立し、女性の自立支援を目指して、洋裁、美容、コンピューター、手工芸、健康管理の体操、子供と青年対象に英語、数学を教えてきたが、2016年12月でワディシールセンターを終了。

国のニーズが変化したことから、2016年10月10日、センターをザルカ県ルサイファ市へ移転。この地域に学校の勉強に追いつけず、読み書きができない子供達が多いことから青少年の識字教室を中心に行い、引き続き女性の自立支援も実施。

### 進展状況

#### 【2017】

- 当センターでの識字教室は、9～13歳の青少年を対象に、アラビア語と英語の授業を週2回実施。大学生が親身になってほぼボランティアで教えている。
- 難民の子供達対象の識字教室を現地 NGO の協力で、スーブ難民キャンプ、サバーセンター、ザルカ市のザルカ難民キャンプ内にあるコミュニティ開発センター（CDC）にて実施。アラビア語の授業を週2回4時間行った。
- 2016年11月～2017年1月、政府福祉課の協力を得て、15人の貧困家庭の婦人たちが、当センターに通い、美容の技術を習得。授業料は政府が負担。参加者全員に卒業証書を授与した。
- 1～4月、青年たちの自立支援のため、理容教室を開講。

#### 【2018】

- 3月～8月、女性対象の美容教室を実施。終了後、WFPより5人に修了証書を授与した。
- 5月、「ラマダン時における美味しいピクルスの作り方」についてのワークショップを開催。25人の女性が参加。
- 10～11月、王室関係の NGO ニールフセイン財団と WFP ヨルダンの共催で「家庭における母親の役目と妊娠時と出産後の健康管理」の3日間のワークショップを6回開催。のべ168人の母親が参加。ニールフセイン財団からワークショップ参加者全員に、毎回、交通費、昼食、コーヒー、スナックが提供された。
- 11～12月、女性対象の教育プログラムとしてアラビア語、英語、コーランの授業を実施。



子供達のアラビア語教室



美容教室

### 2017 年生徒数（のべ人数）

アラビア語（他 NGO）	アラビア語（センター）	英語	美容	理容
177	94	65	60	20

### 2018 年生徒数（のべ人数）

#### 青少年対象

アラビア語（CDC）	アラビア語（センター）	女子対象プログラム
305	725	195

#### 女性対象

美容	アラビア語	英語	コーラン	出産後	ピクルス
5	3	23	32	168	25

# 青少年健全育成



清掃キャンペーンを呼び掛ける子供達



難民キャンプで劇を演じる子供達

## 中東 ヨルダン

### 恵まれない青年と子供たちへの教育

**概要:** 2015年10月、第2の都市ザルカにおいて、難民キャンプ内の青年グループの希望により、難民キャンプ内の子供達のための演劇を通じた情操教育の支援を開始。青年や子供達が困難な環境に打ち勝ち、心の持ち方で可能性が広がることを演劇を通して体験し、精神面での強さを身につけることを目的としている。

ヨルダンでは、10年間の基礎教育校が小・中学校レベルで、義務教育となっている。しかし、貧困地域の公立学校には、遠足、運動会、スポーツの競争など、子供たちのための行事がない。学校の勉強にも、1クラス40～50人の児童の内、15人ほどしかついていけない。学力の低い子供たちに対する対策はなく、そのまま進級しても8、9年生で、学校を去る子が多い。その後、仕事を探しても良い仕事には就けない。そのような子供たちの情操教育を目的とした活動を企画することにした。

### 進展状況

#### 【2018】

● 7～8月、ヨルダン人の40人の12～14歳の基礎教育校の生徒達が、4つの物語を作成し、3か所のパレスチナ難民キャンプへ演劇公演ツアーを実施。100人の難民の子供たちの前で劇を演じた。

#### <ツアーに参加した子供たちの感想>

「僕は良い人間になりたいです。もう喧嘩はしたくありません。地域の為に尽くしていきたいです。」(12歳男子)

「今まで学校に行ったことがありません。小さい頃から、お父さんとダンボールを集める仕事をしています。今回参加してみて、一生懸命勉強して、将来は、何かの技師になりたい。いつまでも、ダンボールだけを集める人間になりたくないです。お父さんを助けることは続けますが、その合間に、センターに来て勉強をしてゆきます。」(14歳男子)

● 11月、WFWPルサイファセンター周辺に住む70人の子供たちが清掃キャンペーンを実施。4人1組のグループを作って、家庭訪問をして、「街をきれいにするキャンペーンに協力してください。」とパンフレットを見せ、協力を承諾してくださったら、パンフレットを玄関に貼らせてもらい、最後に、チョコレートのプレゼントを渡した。

子供たちにとって、訪問し、説明し、プレゼントを渡すという過程は貴重な体験となり、多くの子供たちが参加した。家庭訪問した先の住民の方々にもとても喜ばれた。

## 中南米 ホンジュラス

### 青少年の健全育成プロジェクト

**概要:** ホンジュラスでは貧困ゆえに勉学の機会が失われたり、小さい時から仕事を強いられたり、ドラッグに手を出す子供達も多い。青少年の性の乱れ、早期妊娠、未婚の母などの問題解決のために、青少年の健全育成活動が必要とされている。

2001年テグシガルパ市レパルト地区で、WFWPがサッカーと純潔教育を実施したことがきっかけとなり、この地域に青年団体が結成された。この団体では定期的に、スポーツ、エイズ予防・道徳教育、社会奉仕活動を実施。WFWPでは2015年よりエイズ予防教育の教材提供、エイズ予防・道徳教育講座の指導とともに、活動資金の一部を支援している。

### 進展状況

#### 【2017】

7月8日、WFWP杯サッカー大会開催。レパルト地区でサッカーチームを持っている小学校から5チーム(うち2つが女子チーム)が参加。観客を含め約100人が集まった。人格教育に力を入れており、当日「子供達を教育すれば、大

人達を罰する必要はなくなる」というメッセージのバナーを掲げた。

#### 【2018】

9月22日、WFWP杯サッカー大会開催。12チームが参加。レパルト地区でサッカーチームを持っている小学校から子供達が参加。観客を含め250人参加。大会ではボランティアが食事を用意し子供達にふるまった。



サッカーボールを賞品として授与